

春たけなわ

各地で春の行事

地区の安穏平和を祈る恒例行事

春神楽を今泉神明宮で開催

地区の無病息災や五穀豊穰などを祈る神事は、町の中でも各地区で古くから行われており、中でも一番大きなものが「例大祭」と呼ばれるものだそうです。

今泉地区では、4月16日(金)に今泉神明宮で、恒例の例大祭と神楽奉納が行われていました。八幡宮の松橋宮司が神官を務め、太鼓の音とともに例大祭がスタート。例大祭には地区の住民たちが参加し、祝詞、玉串奉納と厳かに進みました。

例大祭の後半には神楽の奉納が行われ、神楽の奉納では必ず最初に演じられる「神入舞」が舞われます。この舞は祓い清める意味が込められているそうです。最後は「王納(てんのう)の舞」が舞われ、堅い葦ガヤでつくられた5本の破魔矢を、弓で次々と天井に打ち込み、魔を祓いました。



津鉄中里駅の春まつり開催

「起きて夢見る会」が主催

津軽鉄道津軽中里駅で4月25日(日)、春まつりが開催されました。

この春まつりを企画したのは、町に生まれたばかりの地域づくり団体「起きて夢見る会」です。

「この町のために何かできないか」という思いから設立された同会ですが、まず何かをやってみようということで、観光客の玄関口となる津軽中里駅でこのようなイベントを開催しました。

当日は風の強いあいにくの日でしたが、駅前のにぎわいをとさまざまな催しを開催。駅舎内では地元物産品の販売や金多豆蔵人形劇が行われ、また外ではイカ釣りも行われました。この日のイカは特に活きがよかったみたいで、ご覧のとおり潮をかけられた方もいるほどでした。

この日の駅は、スタッフの盛り上げもあって、普段とは違ったにぎわいを見せていました。このイベントに先立ち、前日には同会が駅前周辺の美化活動も行っています。



春の味覚 春わかめ捕り

わかめの旬といえば、春をおいてほかにはありません。

小泊地域の海岸では今、春わかめ捕りの真っ最中です。

春のわかめはシャキッと歯ごたえがあり、味噌汁に入れると何ともいえないおいしさがあります。

このわかめ捕りは、7月頃まで行われているそうです。

